

## 実践報告

### わが病院看護自慢

# 地域と病院をつなぐ認知症ケア ～地域に出向く認知症看護認定看護師～

橋本 陽子

白山石川医療企業団 公立つるぎ病院

日時：2019年11月21日(木) 9：30～11：30

会場：白山石川医療企業団 公立つるぎ病院 会議室

オレンジカフェつるぎ開催場所 『つるぎショッピングスクエアレッツ』

参加者：医療機関の看護師13名、認知症看護認定看護師教育課程履修生2名

- 内容：1. 公立つるぎ病院の特徴・概要、在宅介護連携支援について(講師：地域支援課長)  
2. 白山市地域包括支援センター鶴来と認知症看護認定看護師との連携  
(講師：地域包括支援センター鶴来センター長)  
3. 地域と病院をつなぐ認知症ケア～地域に出向く認知症看護認定看護師～  
(講師：認知症看護認定看護師)  
4. オレンジカフェつるぎ見学  
5. 併設施設(包括支援センター、通所リハビリセンター、ショートステイ)見学  
6. 意見交換

2019年11月21日(木)、当施設において『地域と病院をつなぐ認知症ケア～地域に出向く認知症看護認定看護師～』をテーマにわが病院看護自慢を開催し、県内の病院から13名の看護師の方々と認知症看護認定看護師教育課程の履修生2名にもご参加をいただきました。

2017年4月に高齢者支援センターが7か所となり、当院は鶴来圏域を担う「白山市地域包括支援センター鶴来」を受託しました。

白山市地域包括支援センター鶴来のセンター長から活動と連携について講演があり、最近では男性介護者が増えていることから『ほっと一息！男性介護者カフェ』を開催したところ、男性がこんなに話をするのかと担当者も驚くくらい大変な盛り

上がりだったとのことでした。また、男性は社会参加の機会を作りにくいことから、囲碁・将棋クラブを開設したことなどの報告がありました。

包括支援センターの職員が積極的に地域に出向くことで相談を受けやすくなり、徘徊する女性の家族からの相談を認知症看護認定看護師へつなぎ、介入により家族は気持ちが楽になったと話されました。その後グループホームへ入所となり週に1回は長男と畑へ外出することを楽しまれ、家族も笑顔で過ごしておられた事例の紹介がありました。

今回スタッフとして参加した当院の看護師からも「自分の病院と包括支援センターの連携を知らなかった」や「改めて包括支援センターの役割を知る機会になった」との声もあり、部門を超えて

連絡先：橋本 陽子

白山石川医療企業団公立つるぎ病院

〒920-2134 石川県白山市鶴来水戸町ノ1番地



写真① オレンジカフェ  
(リハビリスタッフによるコグニサイズの様子)

の活動を知る機会となりました。

開設当初から認知症カフェ（以後オレンジカフェ）の運営は包括支援センターの担当者と当院の認知症ケアチームの協働で開催しています。毎月月替わりで認知症ケア専門士の資格を有する介護福祉士、管理栄養士、社会福祉士、作業療法士がミニ講座を開催し、認知症看護認定看護師2名が交替で相談に応じる体制を整えています。オレンジカフェつるぎは昨年度までは、第3土曜日に病院併設の通所リハビリセンターで開催していましたが、今年の7月からは、地域住民の方々が気軽に立ち寄っていただけるようにと商業施設の一角で開催することになりました。今回は作業療法士による『コグニサイズ(頭と身体を使う運動)』(写真①)と移動交番による『振り込め詐欺』のミニ講座がありました。

また、移動交番が開催されることもあり、県警地域課員が買い物客にチラシを配布し呼びかけたことから、約30名の参加があり、カフェに参加された市民が楽しく過ごされる様子を見学されました。当日の相談として事前の連絡はありましたが、賑わっていた雰囲気から相談を躊躇され、後日相談に来られることになりました。開放的なカフェとなり宣伝効果もありますが反面、相談を受けるときは静かな別室も必要ではないかと今後の検討課題でもあります。

当院は認知症ケア加算1を算定していますが専門医が常時いない診療体制の中で、脳神経内科医が週に1回外来診療にあたります。認知症看護認定看護師は2名で、病棟業務を兼任し隔週で脳神経内科外来の診療につきながら、認知症看護外来



写真② 参加者と病院スタッフとの意見交換の様子

として、相談等に応じています。地域への出前講座や退院後訪問にも出向き、支援を継続できるように活動しています。

併設施設の見学では、通所リハビリセンターには地域の特産である吉野杉を天井飾りに使い、畳コーナーには縁側をイメージした和室や白峰の牛首袖を使用した暖簾、加賀獅子頭、など地域の馴染みのものが身近に感じられるように工夫されています。

参加していただいた方と担当スタッフとの意見交換では(写真②)商業施設でオレンジカフェを開催してのメリットの質問がありました。商業施設で行うことで、退院された患者さんの日常生活を見ることのメリットを感じていましたが、参加者から「ショッピングセンターで地域の方々の暮らしを見ながら(感じながら)活動することの意義を実感しました。」との感想がありました。他にも、地域に密着した取り組み、病院と地域との連携の実際を見学できてよかったとのご意見もいただきました。

病院から商業施設への移動は通所リハビリの送迎のバス5台に便乗し(徒歩5分程度の距離ですが)オレンジカフェの見学をしていただき、病院職員が協力して迎えてくれたことに感銘を受けたと話してくださったことや、参加された方々以上に自分たちにとっても自施設の自慢の発見につながり、励みにもなりました。

地域で最期まで生活者として支えることができるよう今後も活動の場を拡げていける体制を整えていきたいと思っています。